

## 保護者への支援 ～保護者の思いに寄り添うために～

仁愛女子短期大学 講師 青井夕貴

### ◆講座要項掲載内容◆

具体的な事例を基に、グループワークやロールプレイなどを通して、保護者支援の方法について考えます。話し合いの進行状況によっては終了時間が遅くなる可能性もありますので、ご了承ください。参加ご希望の方の中で、「保護者の気持ちが理解できない」「どう対応していいかわからない」など、ぜひ検討してほしい！という事例があれば、個人等が特定できない形式で申し込み時にご提供ください。

### ◆開催期日◆

平成23年1月29日（土）13：30～15：00

### ◆開催内容◆

今回のワークショップは、もともと参加希望者が多くはなかったのですが、当日は大雪のため朝から欠席のご連絡が続きました。開催を中止しようかとも考えましたが、すでに会場へ向かっている方などもいらっしゃったので、最終的には2名の保育士の先生にご参加いただき、こじんまりとした座談会のような形となりました。

和やかな雰囲気の中でも、保護者との関わりの中で、今まさに課題と感じられていることなどについて、率直な意見交換をしながら、深く考えることができました。同じ保育士であっても、経験年数や立場が異なることで、

保護者への対応の仕方や感じ方なども多様になることを再確認し、それが大きな刺激となっていたと思います。

保護者支援については、保育・幼児教育に携わる保育者に大きな役割が求められるようになり、保護者自身の状態も多様化している中、保育者は個々の保護者の状態に応じた関わりに苦悩している現状も否定できません。保育者は日々あらゆる方法を活用し、経験や専門的知識を基に保護者への対応に取り組んでいます。しかし、そこにはおそらく単に方法の問題があるだけではないように思われます。保育者は、子育てに関する保育者自身の価値観と保護者の価値観のずれの違いを感じながらも、意図的に保護者と関わり、保護者に合わせて自分をコントロールしなければならないという葛藤や保育者個人の意識についても、今回の大きなテーマとして共有しました。

参加者の方の感想としては、「自分を見つめなおす機会となった」「的確にアドバイスをもらった」など参加人数が少なかったことを肯定的に捉えていただきました。今後は、保護者支援についてより多面的に考えていく内容や、最近よく使われている「気になる子」あるいは気になる子の保護者支援についての内容なども取り上げていきたいと思います。加えて、より参加していただきやすいような参加時期を考えていく必要性を改めて痛感しました。